

第3回スタートアップゼミ

2017/4/20

最適化問題

最短経路探索とダイクストラ法

均衡配分法のアルゴリズム

広瀬啓人

今日の内容

1. 最適化問題(均衡配分モデルの導出における数学的手法)
2. 最短経路探索とダイクストラ法
3. 均衡配分法のアルゴリズム

今日の内容

1. 最適化問題(均衡配分モデルの導出における数学的手法)
2. 最短経路探索とダイクストラ法
3. 均衡配分法のアルゴリズム

1.1 最適化問題

N個の制約条件 $g_n(x_1, \dots, x_M) \geq d_n (n = 1, \dots, N)$ を満たしながら、

目的関数 $Z(x_1, \dots, x_M)$ を最小にするような

M個の最適変数の組 (x_1^*, \dots, x_M^*) を求める問題

$$\min \underline{Z(x_1, \dots, x_M)}$$

最小化したい関数

subject to

$$g_1(x_1, \dots, x_M) \geq d_1$$

⋮

$$g_N(x_1, \dots, x_M) \geq d_N$$

制約条件

1.2 解法

以下を調べる

① 必要性: 1次の最適性条件... 局所的最適解

② 十分性: 2次の最適性条件

②-1: 目的関数が狭義凸関数

「 Z のヘッセ行列が正定値」 \Rightarrow 「関数 Z は狭義凸関数」

※ヘッセ行列(Hessian) : $H = \nabla^2 Z(x)$

ヘッセ行列が正定値: 任意の x にたいして、 ${}^t x H x > 0$

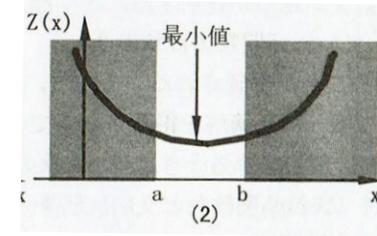
②-2: 実行可能領域が凸集合

実行可能領域内の2点を結ぶ線分が常に実行可能領域内

1.3 一変数の場合 (M=1)

① 1次の最適性条件

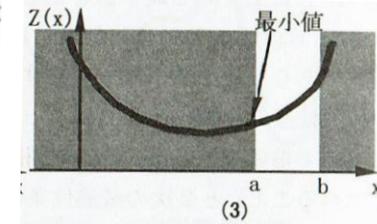
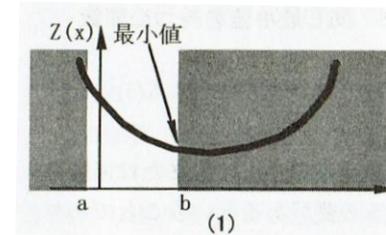
最小点の実行可能領域内: $\frac{dZ(x^*)}{dx} = 0$



最小点の実行可能領域外... 制約条件上で最小値になっている

最小点で効いている制約条件 g_t について

$$\frac{dZ(x^*)}{dx} = h_t \frac{dg_t(x^*)}{dx} \quad (h_t > 0)$$



Kuhn-Tucker条件



一般化

$$\frac{dZ(x^*)}{dx_m} = \sum_n h_n \frac{dg_n(x^*)}{dx_m}$$

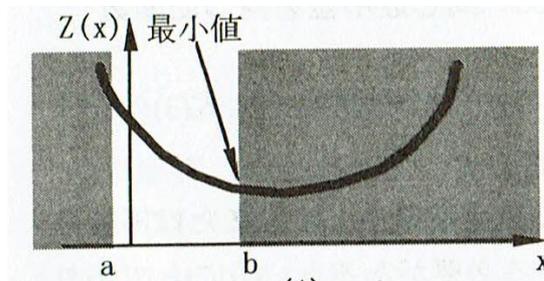
$$h_n \geq 0, h_n [d_n - g_n(x^*)] = 0, g_n(x^*) \geq d_n$$

1.3 一変数の場合 (M=1)

② 2次の最適性条件

$$\textcircled{2}-1: \frac{d^2 Z}{dx^2} > 0$$

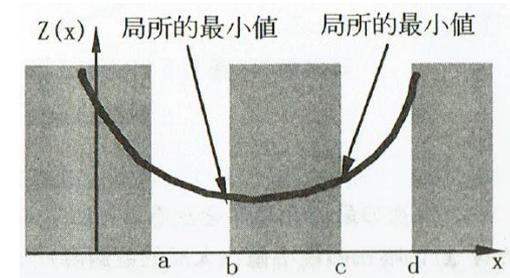
②-2:



$$a \leq x \leq b$$

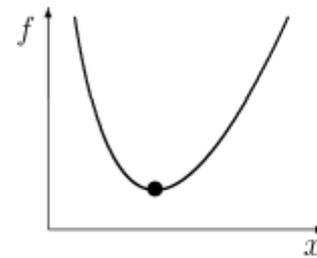
$$\begin{aligned} g_1(x) &= x \geq a \\ g_2(x) &= -x \geq -b \end{aligned}$$

凸領域

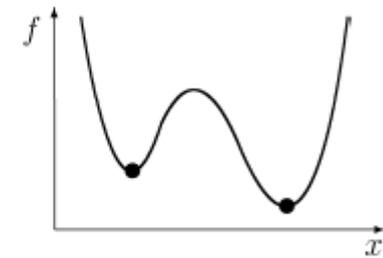


$$a \leq x \leq b, c \leq x \leq d$$

凸領域ではない



凸関数



凸でない関数

1.4 多変数の場合(制約条件なし)

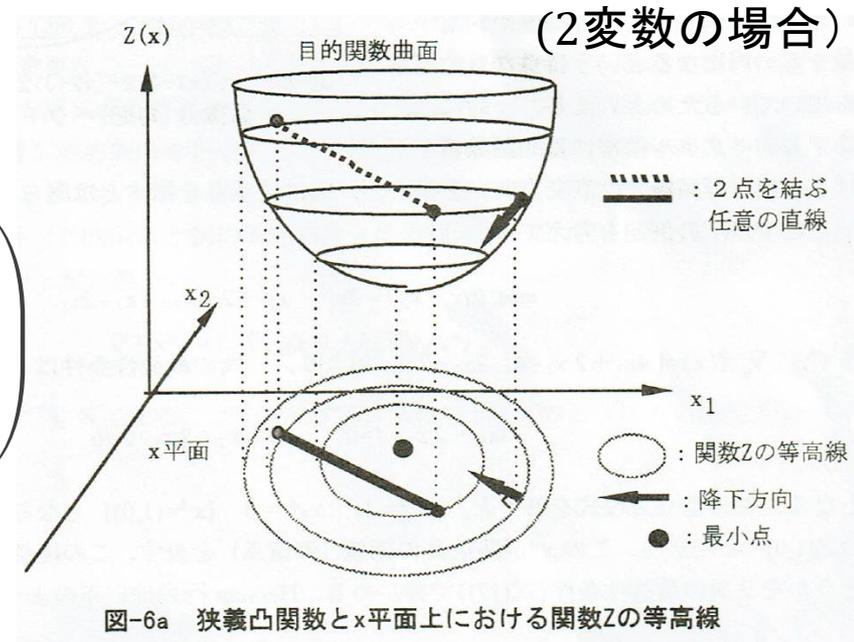
$$\textcircled{1} \text{1次の最適性条件} \cdots \nabla Z(\mathbf{x}^*) = \left(\frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_1}, \dots, \frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_M} \right) = 0$$

②2次の最適性条件

$$\textcircled{2}-1: {}^t \mathbf{x} \mathbf{H} \mathbf{t} > 0$$

$$\mathbf{H} = \nabla^2 Z(\mathbf{x}) = \begin{pmatrix} \frac{\partial^2 Z(\mathbf{x})}{\partial x_1^2} & \cdots & \frac{\partial^2 Z(\mathbf{x})}{\partial x_1 \partial x_M} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \frac{\partial^2 Z(\mathbf{x})}{\partial x_M \partial x_1} & \cdots & \frac{\partial^2 Z(\mathbf{x})}{\partial x_M^2} \end{pmatrix}$$

②-2: 自明



1.5 多変数の場合(制約条件あり)

① 1次の最適性条件

- ・最小点の実行可能領域内・・・ $\nabla Z(\mathbf{x}^*) = 0$
- ・最小点の実行可能領域外

$$\begin{aligned} \min Z(x_1, \dots, x_M) \\ \text{subject to} \\ g_1(x_1, \dots, x_M) \geq d_1 \\ \vdots \\ g_n(x_1, \dots, x_M) \geq d_n \end{aligned}$$

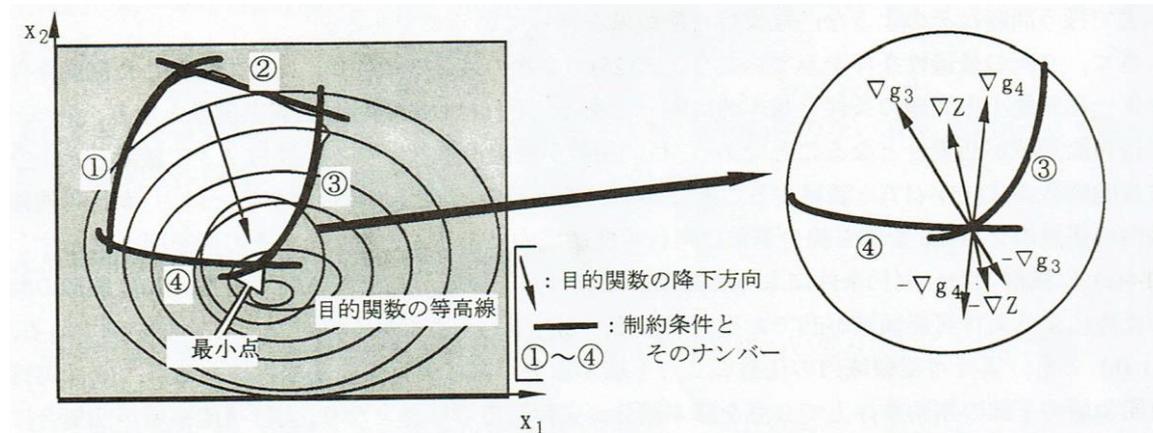
最小点効いている制約条件 $\{t\}$ 上で最小となるとき

$$\frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} = \sum_t h_t \frac{\partial g_t(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} \quad (h_t > 0)$$

たとえば・・・

$$\frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_n} = h_3 \frac{\partial g_3(\mathbf{x}^*)}{\partial x_n} + h_4 \frac{\partial g_4(\mathbf{x}^*)}{\partial x_n}$$

$$h_3 \geq 0, h_4 \geq 0$$



1.5 多変数の場合(制約条件あり)

一般化した1次の最適化条件

Kuhn-Tucker条件

$$\frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} = \sum_n h_n \frac{\partial g_n(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m}$$
$$h_n \geq 0, h_n [d_n - g_n(\mathbf{x}^*)] = 0, g_n(\mathbf{x}^*) \geq d_n$$

$$\begin{aligned} \min Z(x_1, \dots, x_M) \\ \text{subject to} \\ g_1(x_1, \dots, x_M) \geq d_1 \\ \vdots \\ g_n(x_1, \dots, x_M) \geq d_n \end{aligned}$$

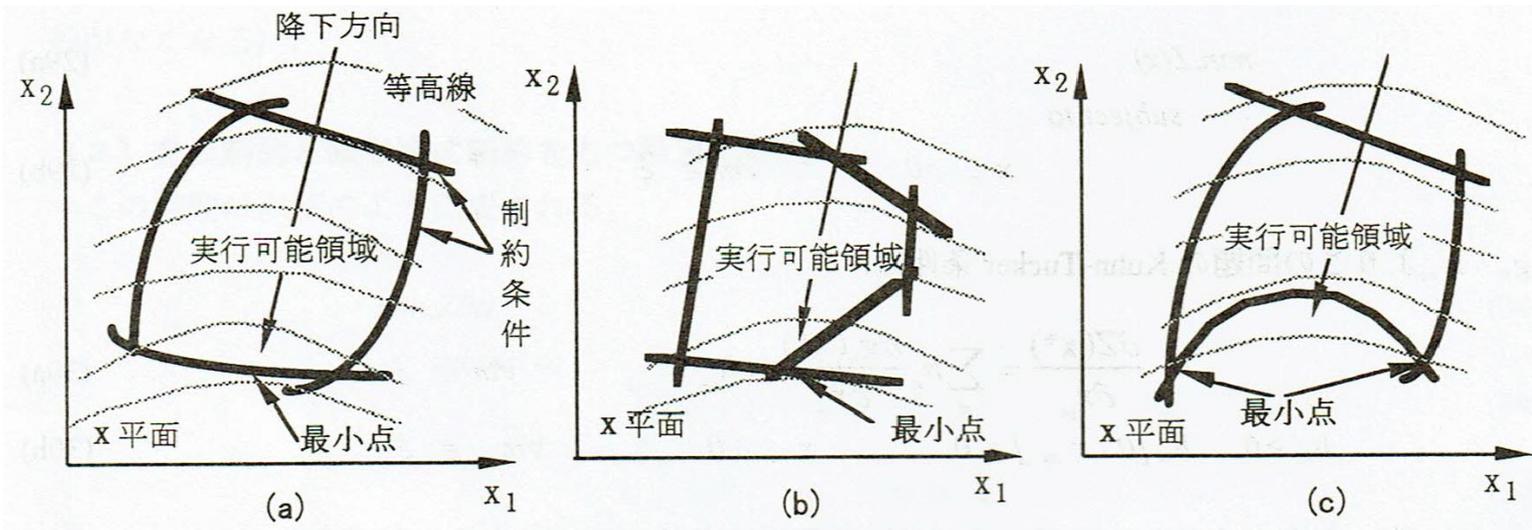
 h_n をLagrangian乗数(Kuhn-Tucker乗数)という

1.5 多変数の場合(制約条件あり)

② 2次の最適性条件

②-1: ${}^t x H t > 0$

②-2:



凸領域

凸領域

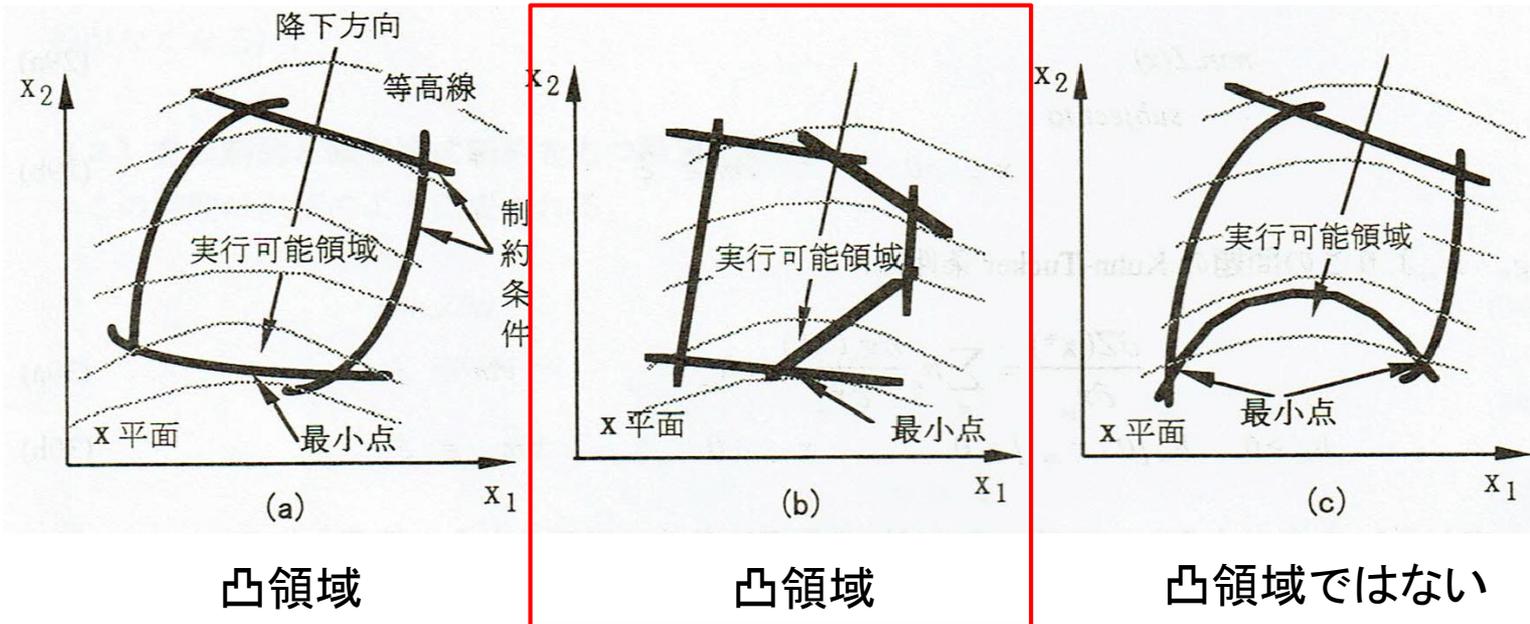
凸領域ではない

1.5 多変数の場合(制約条件あり)

② 2次の最適性条件

②-1: ${}^t x H t > 0$

②-2:



1.5 多変数の場合(制約条件あり)

練習問題

$$\begin{aligned} \min Z(x_1, x_2) &= 2x_1^2 + x_2^2 + 2x_1x_2 - 4x_1 - 2x_2 \\ &\text{subject to } 2x_1 + x_2 \geq 5 \end{aligned}$$

1.5 多変数の場合 (制約条件あり)

$$\begin{aligned} \min Z(x_1, x_2) &= 2x_1^2 + x_2^2 + 2x_1x_2 - 4x_1 - 2x_2 \\ \text{subject to } &2x_1 + x_2 \geq 5 \end{aligned}$$

解答

$\nabla Z(\mathbf{x}) = (4x_1 + 2x_2 - 4, 2x_2 + 2x_1 - 2)$ ゆえ、Kuhn-Tucker条件より、

$$\begin{cases} 4x_1 + 2x_2 - 4 = 2h_1 \\ 2x_2 + 2x_1 - 2 = h_1 \\ h_1 \geq 0 \\ h_1(2x_1 + x_2 - 5) = 0 \\ 2x_1 + x_2 \geq 5 \end{cases}$$

$h_1 = 0$ とすると、第1式と第2式より $\mathbf{x} = (1, 0)$ を得るが、これは第5式を満たさない。

(※これは、制約条件がないときの最適解となっている)

従って $h_1 > 0$ とし、連立方程式を解くと、

$$\mathbf{x} = \left(\frac{5}{2}, 0\right), h_1 = 3, Z\left(\frac{5}{2}, 0\right) = \frac{5}{2}$$

Hessian行列は、

$$\nabla^2 Z(\mathbf{x}) = \begin{pmatrix} 4 & 2 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$$

であり、任意の $\mathbf{x} (\neq \mathbf{0})$ について、

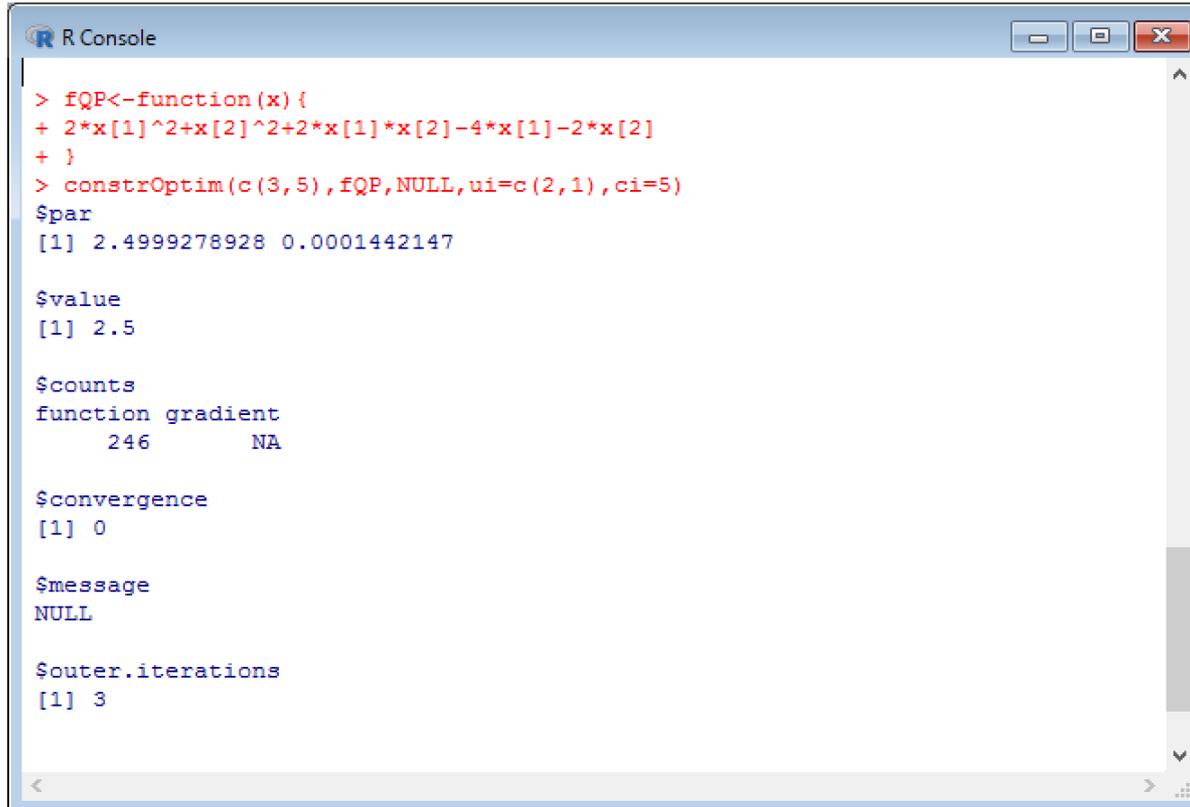
$${}^t\mathbf{x}\mathbf{H}\mathbf{x} = (2x_1 + x_2)^2 + x_2^2 > 0$$

よって、 $\mathbf{x} = \left(\frac{5}{2}, 0\right)$ は大局的最適解である。

1.5 多変数の場合(制約条件あり)

$$\begin{aligned} \min Z(x_1, x_2) &= 2x_1^2 + x_2^2 + 2x_1x_2 - 4x_1 - 2x_2 \\ &\text{subject to } 2x_1 + x_2 \geq 5 \end{aligned}$$

参考: Rを使って解くとこんな感じになります



```
R Console
> fQP<-function(x) {
+ 2*x[1]^2+x[2]^2+2*x[1]*x[2]-4*x[1]-2*x[2]
+ }
> constrOptim(c(3, 5), fQP, NULL, ui=c(2, 1), ci=5)
$par
[1] 2.4999278928 0.0001442147

$value
[1] 2.5

$counts
function gradient
      246      NA

$convergence
[1] 0

$message
NULL

$outer.iterations
[1] 3
```

<http://www.okadajp.org/RWiki/?%E7%B7%9A%E5%BD%A2%E4%B8%8D%E7%AD%89%E5%BC%8F%E5%88%B6%E7%B4%84%E4%BB%98%E3%81%8D%E3%81%AE%E6%9C%80%E9%81%A9%E5%8C%96%E9%96%A2%E6%95%B0%20constrOptim>

1.6 特定条件下のKuhn-Tucker条件

非負制約と、線形等式制約をもつ場合

$$\begin{array}{l} \min Z(\mathbf{x}) \\ \text{subject to} \\ \sum_m f_{mn}x_m = d_n \\ x_m \geq 0 \end{array}$$

Kuhn-Tucker条件

$$x_m^* \left(\frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} - \sum_n h_n f_{mn} \right) = 0 \text{ and } \frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} - \sum_n h_n f_{mn} \geq 0, x_m^* \geq 0$$
$$\sum_m f_{mn}x_m = d_n$$

1.7 Lagrangian関数

$$L(\mathbf{x}, \mathbf{h}) = Z(\mathbf{x}) + \sum_n h_n (d_n - g_n(\mathbf{x})) \quad (h_n \geq 0)$$

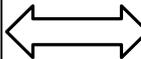
- 最適化問題を解く上で便利な関数
(制約条件を関数内に取り込める)

もともとの最適化問題

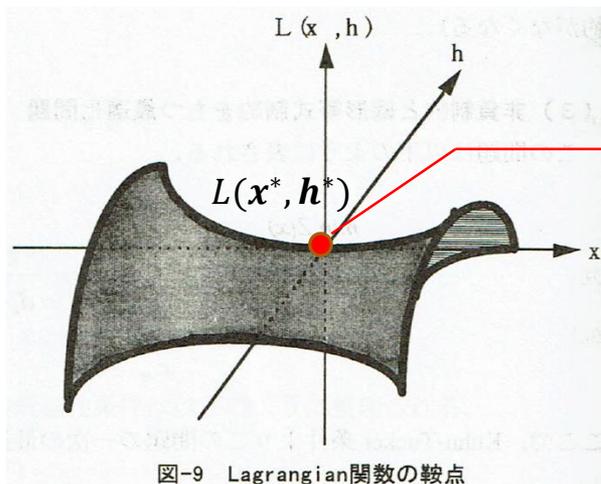
$$\begin{aligned} \min Z(x_1, \dots, x_M) \\ \text{subject to} \\ g_1(x_1, \dots, x_M) \geq d_1 \\ \vdots \\ g_n(x_1, \dots, x_M) \geq d_n \end{aligned}$$

同値

Lagrangian関数の鞍点を求める



元の制約条件付き最適化問題を解く

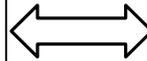


$L(x^*, h^*)$ は x について最小化し、 h について最大化した鞍点

1.7 Lagrangian関数

同値

Lagrangian関数の鞍点を求める



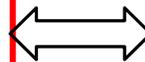
元の制約条件付き最適化問題を解く

Lagrangian関数の一次の最適性条件(制約なし)

Kuhn-Tucker条件

$$\frac{\partial L(\mathbf{x}^*, \mathbf{h}^*)}{\partial x_m} = 0$$

$$h_n \frac{\partial L(\mathbf{x}^*, \mathbf{h}^*)}{\partial h_n} = 0 \text{ and } \frac{\partial L(\mathbf{x}^*, \mathbf{h}^*)}{\partial h_n} \geq 0, h_n \geq 0$$



$$\frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} - \sum_n h_n \frac{\partial g_n(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} = 0$$

$$h_n \geq 0, h_n [d_n - g_n(\mathbf{x}^*)] = 0, d_n - g_n(\mathbf{x}^*) \leq 0$$

※スライド9

1.7 Lagrangian関数

$$L(\mathbf{x}, \mathbf{h}) = Z(\mathbf{x}) + \sum_n h_n \left(d_n - \sum_m f_{mn} x_m \right), x_m \geq 0$$

Lagrangian関数の一次の最適性条件(非負制約、線形等式制約付き)

$$x_m \frac{\partial L(\mathbf{x}^*, \mathbf{h}^*)}{\partial x_m} = 0 \text{ and } \frac{\partial L(\mathbf{x}^*, \mathbf{h}^*)}{\partial x_m} \geq 0, x_m \geq 0$$

$$\frac{\partial L(\mathbf{x}^*, \mathbf{h}^*)}{\partial h_n} = 0$$

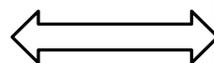
もともとの最適化問題

$$\min Z(\mathbf{x})$$

subject to

$$\sum_m f_{mn} x_m = d_n$$

$$x_m \geq 0$$



$$x_m^* \left(\frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} - \sum_n h_n f_{mn} \right) = 0 \text{ and } \frac{\partial Z(\mathbf{x}^*)}{\partial x_m} - \sum_n h_n f_{mn} \geq 0, x_m^* \geq 0$$

$$\sum_m f_{mn} x_m = d_n$$

※スライド15

Kuhn-Tucker条件

1.8 確定的利用者均衡配分

- 等価な最適化問題への変換

$$\min Z_p = \sum_{a \in A} \int_0^{x_a} t_a(w) dw$$

制約条件:

$$\sum_{k \in K_{rs}} f_k^{rs} - q_{rs} = 0$$

$$x_a = \sum_{k \in K_{rs}} \sum_{r \in \Omega} \delta_{a,k}^{rs} f_k^{rs}$$

$$f_k^{rs} \geq 0, x_a \geq 0$$

非負制約、線形等式制約付きの
最適化問題

今日の内容

1. 最適化問題(均衡配分モデルの導出における数学的手法)
2. 最短経路探索とダイクストラ法
3. 均衡配分法のアルゴリズム

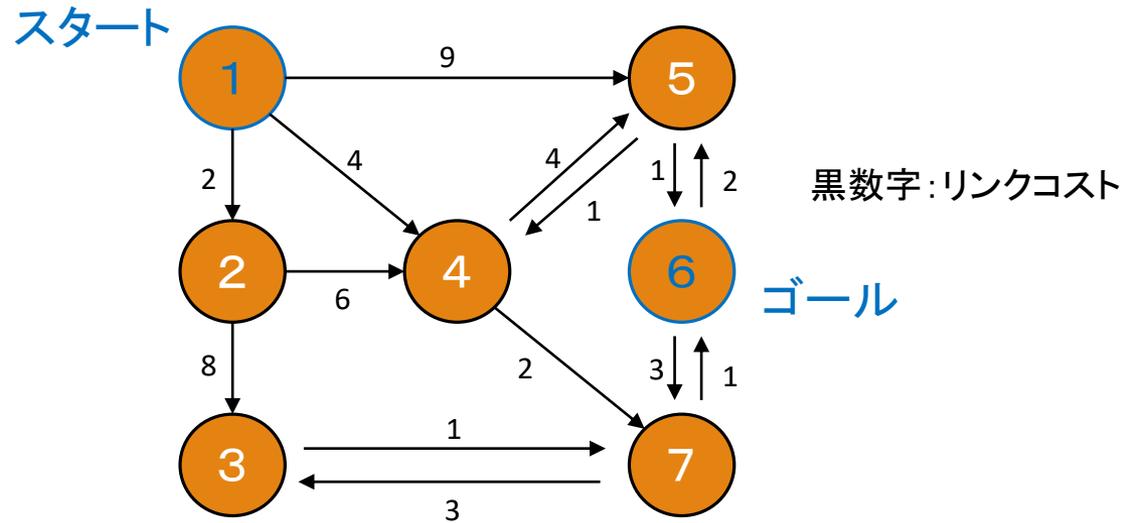
2.1 最短経路探索

交通ネットワークの最適化問題を解く上での問題

考えられる膨大な経路から、いかに効率的に利用経路を列挙するか

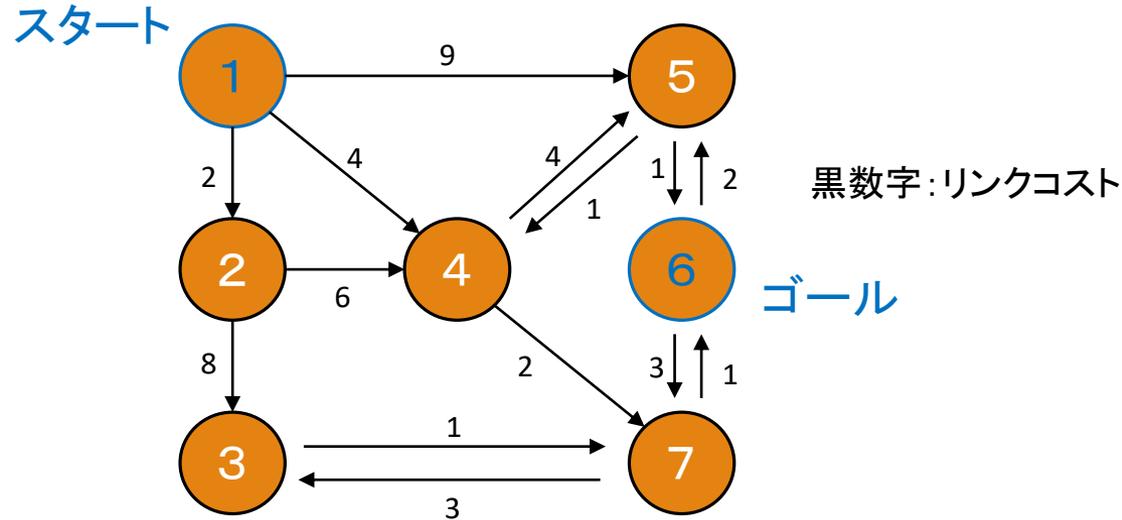
2.1 最短経路探索

下図で、ノード1からノード6までの最短ルートは？



2.1 最短経路探索

下図で、ノード1からノード6までの最短ルートは？



答えは、 **1 → 4 → 7 → 6**

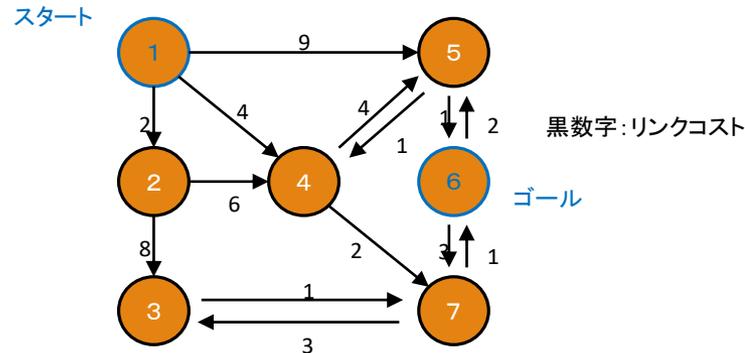
どのようにして探すか？全ての経路を書き出す？

1 → 2 → 4 → 7 → 6 (11) / 1 → 2 → 3 → 7 → 6 (14) / **1 → 4 → 7 → 6 (7)**

1 → 5 → 4 → 7 → 6 (16) / 1 → 5 → 6 (10)

→全てのノードを求める場合や、ネットワークが巨大な場合、計算量が膨大

2.1 最短経路探索



たとえば...

答え $1 \rightarrow 4 \rightarrow 7 \rightarrow 6$
 ノード7までの最短経路

~~$1 \rightarrow 2 \rightarrow 4 \rightarrow 7 \rightarrow 6 (11)$~~ / ~~$1 \rightarrow 2 \rightarrow 3 \rightarrow 7 \rightarrow 6 (14)$~~ / $1 \rightarrow 4 \rightarrow 7 \rightarrow 6 (7)$
 ~~$1 \rightarrow 5 \rightarrow 4 \rightarrow 7 \rightarrow 6 (16)$~~ / $1 \rightarrow 5 \rightarrow 6 (10)$

より効率的に解を見つけられる

2.1 最短経路探索

交通ネットワークの最適化問題を解く上での問題

考えられる膨大な経路から、いかに効率的に利用経路を列挙するか

最短経路探索法は利用者均衡配分のアルゴリズムの一部として

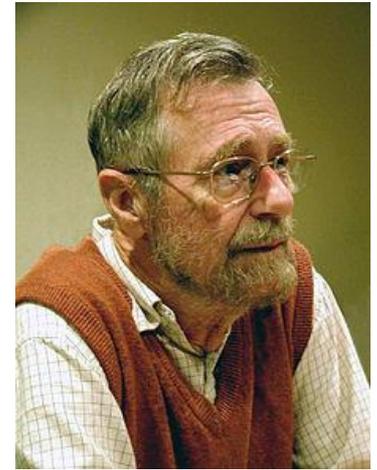
よく用いられる

効率がよいとされる方法として以下の2つ

- Dijkstra法(ラベル確定法)
- ラベル修正法

2.2 Dijkstra法

ノードとリンクからなるネットワークを考え、ある始点から他のノードまでの最短経路(=最小費用で行ける経路)を求める



Edsger Wybe Dijkstra
(1930-2002)

<変数の設定>

・すべてのノードは、既に最短経路が求まっているノードの集合 K と

まだ最短経路が求まっていないノードの集合 \bar{K} のどちらかに分類できる

・ c_i : 始点からノード i までの最小交通費用

$i \in K$ のとき c_i : 最小交通費用(確定)

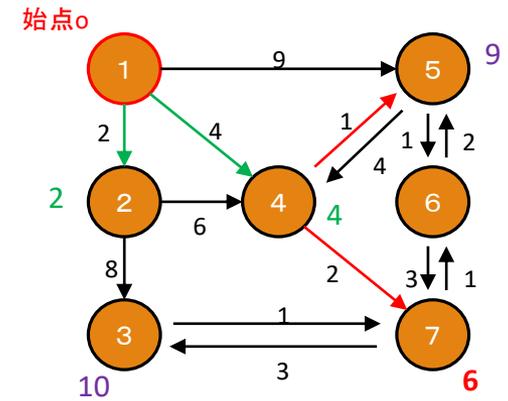
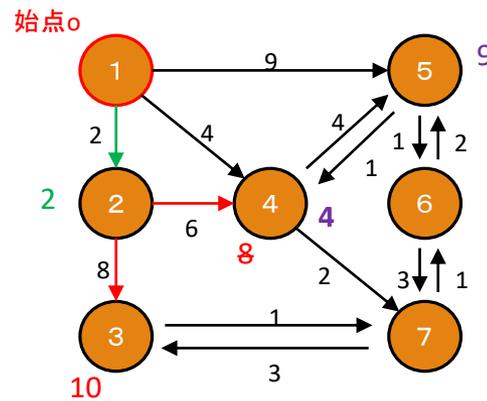
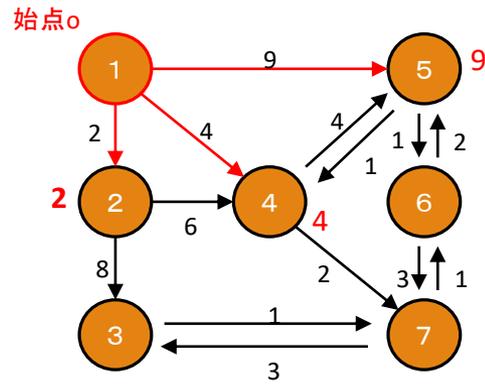
$i \in \bar{K}$ のとき c_i : 部分的最小費用... 暫定の最小費用のようなもの

・ t_{ij} : ノード i からノード j までの交通費用

・ 各ノードについて、ポインタ F_i という量を考える(最短経路を列挙する際に使う)

2.2 Dijkstra法

<イメージ>

「最短だとわかるところから決めていく」

2.2 Dijkstra法

アルゴリズム

Step1

全てのノード $\{j\}$ について、部分的最小費用 $c_j = \infty, F_j = 0, j \in \bar{K}$ とする。
起点を o とし、 $c_o = 0, i = o$ とする。ノード o を集合 K に移す

Step2

ノード i から出る全リンクの終点ノード $\{m\}$ について、
 $c_m > c_i + t_{im}$ ならば、 $c_m = c_i + t_{im}$ に更新し、 $F_m = i$ とする

Step3

集合 \bar{K} に属すすべてのノードの中での部分的最小費用が最小となっているノードを求め、これをノード j とする。ノード j を集合 K にうつす。
$$c_j = \min_p (c_p) \quad (p \in \bar{K})$$

Step4

$c_p = \infty$ 以外のすべてのノードが集合 K に移されているかチェック

NO

$i = j$ として
Step2へ

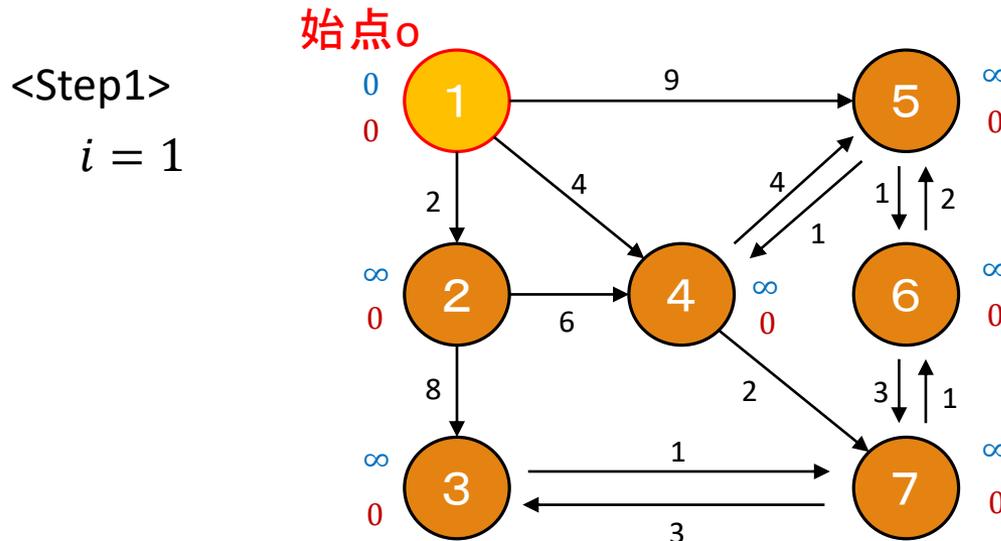
YES

終了

2.3 Dijkstra法の例題

図のような、7つのノードとそれらがリンクで結ばれているネットワークを考える。

始点をノード1として、ノード1から各ノードまでの最短距離と最小費用を求めよう。



c_m							F_m						
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
0	∞	∞	∞	∞	∞	∞	0	0	0	0	0	0	0

K	1
\bar{K}	2,3,4,5,6,7

2.3 Dijkstra法の例題

<Step2>

ノード1から行けるのはノード2, 4, 5 → $m = 2, 4, 5$

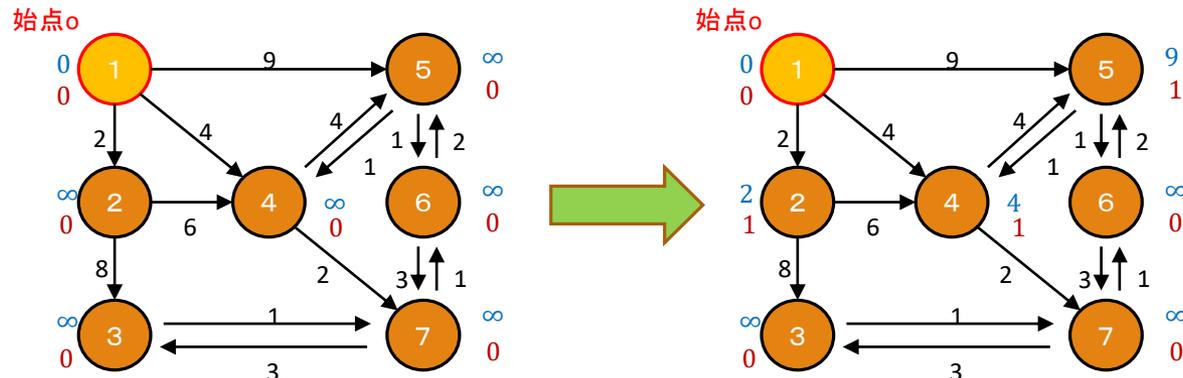
$$c'_2 = c_1 + t_{12} = 0 + 2 = 2 < \infty (= c_2)$$

$$c'_4 = c_1 + t_{14} = 0 + 4 = 4 < \infty (= c_4)$$

$$c'_5 = c_1 + t_{15} = 0 + 9 = 9 < \infty (= c_5)$$

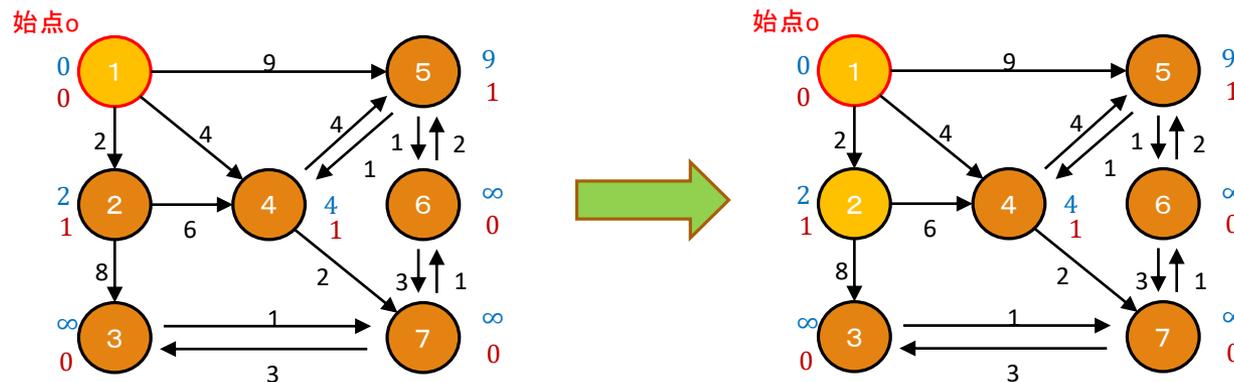
$m = 2, 4, 5$ すべてで $c'_m < c_m$ となっているので、すべて更新。

また、 $F_m = i = 1$ とする。



2.3 Dijkstra法の例題

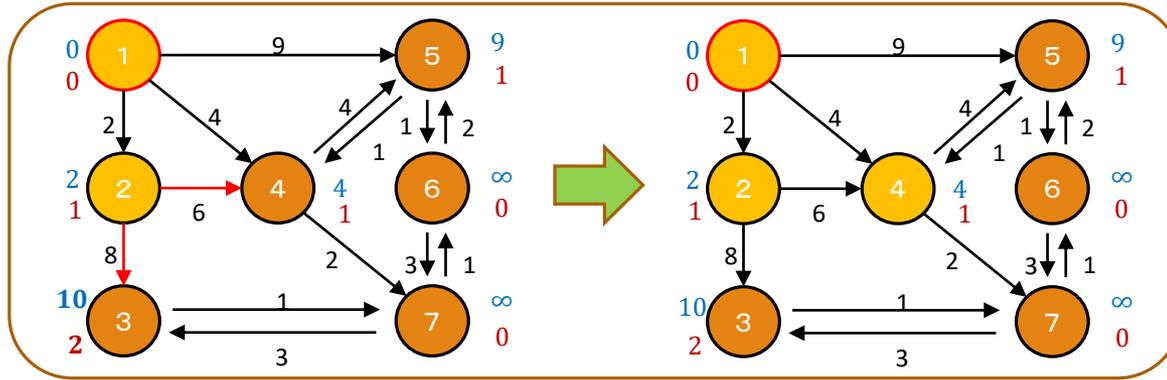
<Step3>

 $\bar{K} = \{2, 3, 4, 5, 6, 7\}$ に属すノードの中で費用が最小となるのは、ノード2→ $j = 2$ として、ノード2を集合 K へと移すノード2を含む最短経路: $1 \rightarrow 2$ 最小交通費用: $c_2 = c_1 + t_{12} = 0 + 2 = 2$ <Step4> $c_p \neq \infty$ かつ $p \in \bar{K}$ なる p が残っている→次は、 $i = 2$ でstep2~step4を行う

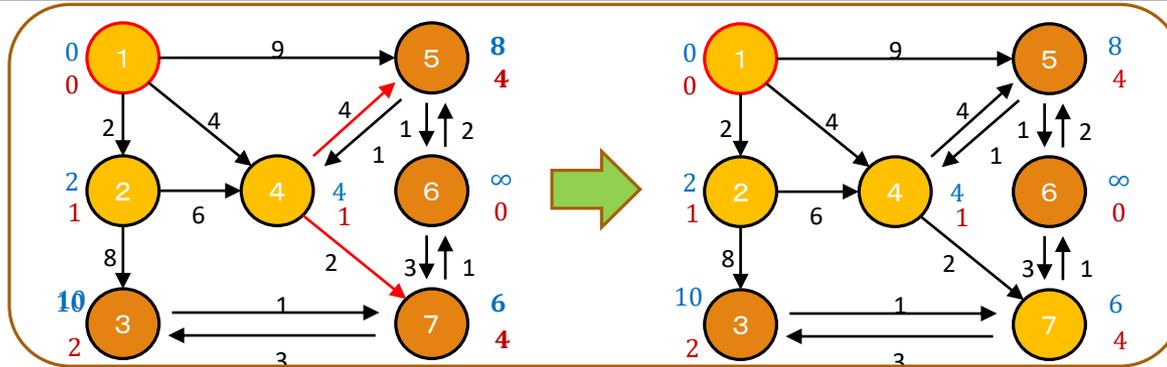
2.3 Dijkstra法の例題

太字は更新された箇所

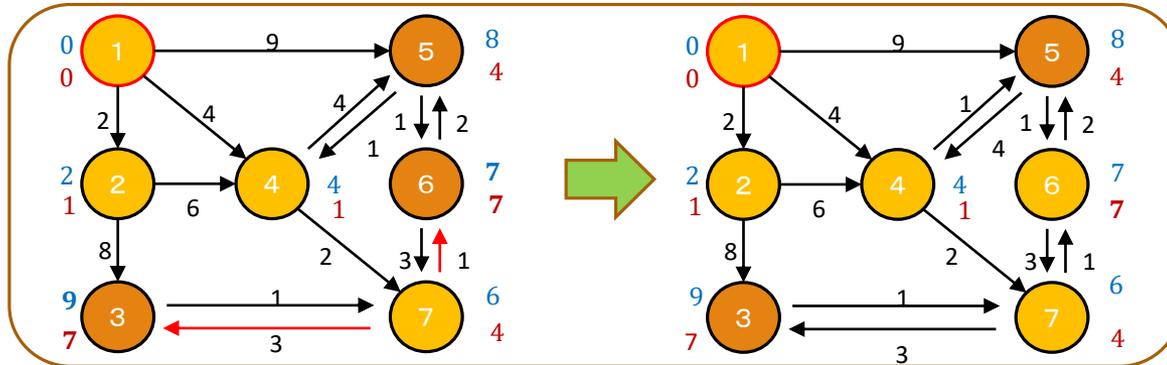
$i = 2$



$i = 4$

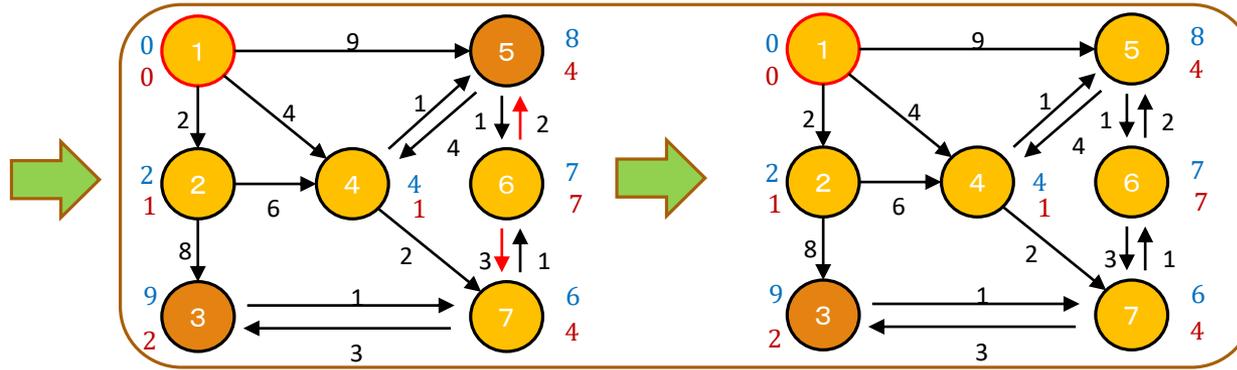


$i = 7$

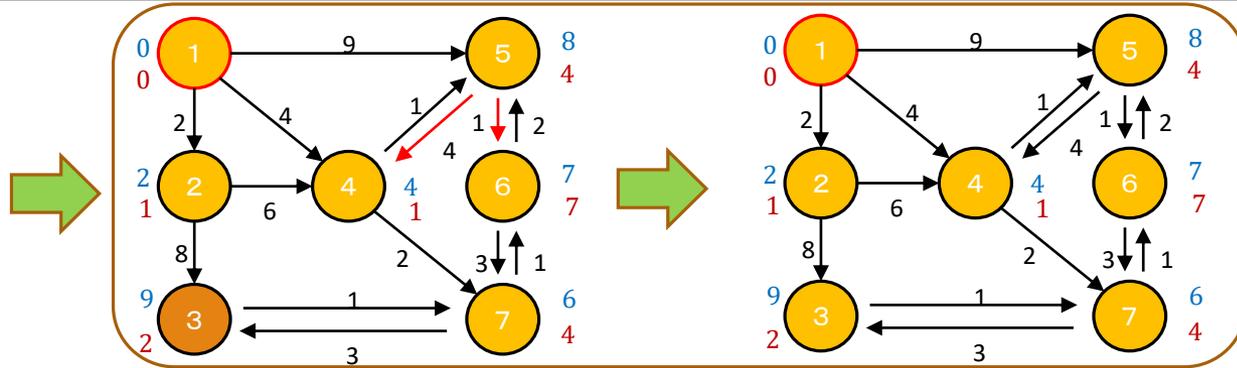


2.3 Dijkstra法の例題

$i = 6$



$i = 5$



➡ 終了

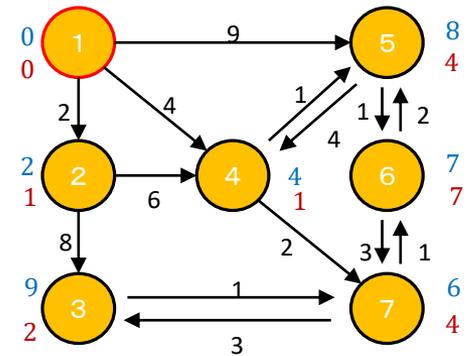
2.3 Dijkstra法の例題

<最短経路の列挙>

ポインタ F_m を目印に遡っていく

・ノード6までの最短経路

$6 \rightarrow (F_6 =)7 \rightarrow (F_7 =)4 \rightarrow (F_4 =)1$



2.4 ヒープ構造

- ・最小値を効率的に求めるために用いるデータ構造
- ・ダイクストラ法の中で使われるデータ処理方法

ダイクストラ法のStep3

集合 \bar{K} に属すすべてのノードの中での部分的最小費用が最小となっているノードを求め、これをノード j とする。ノード j を集合 K にうつす。

$$c_j = \min_p (c_p) \quad (p \in \bar{K})$$

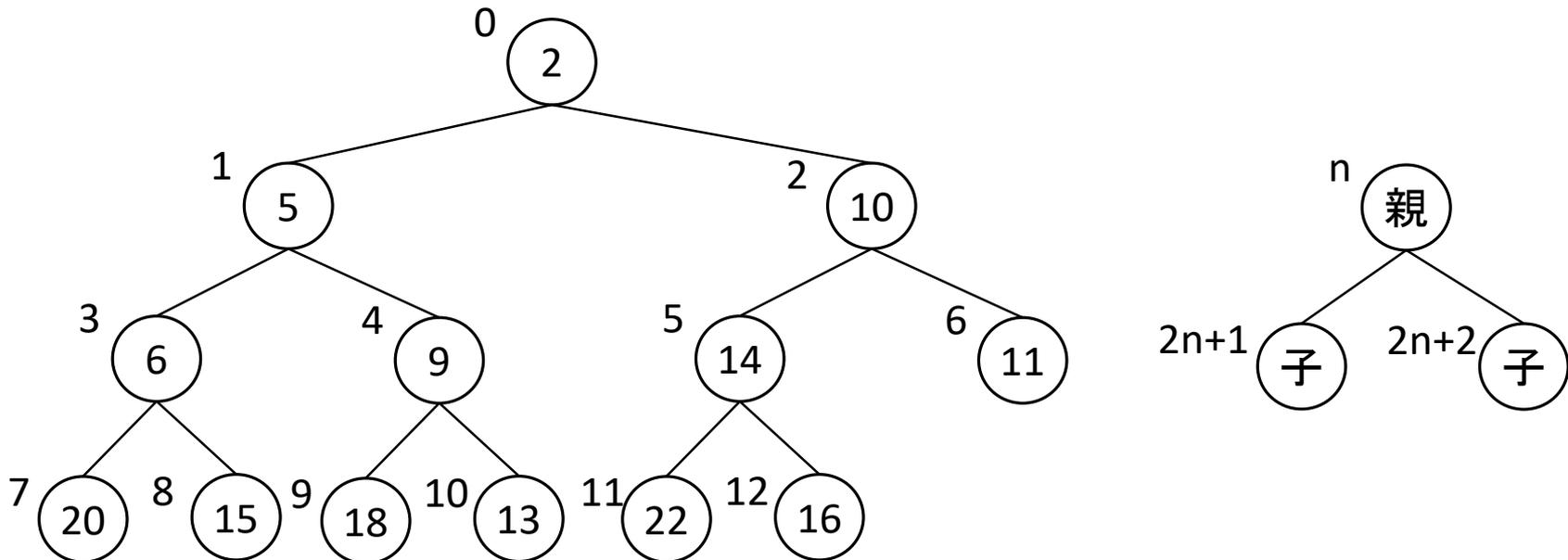
2.4 ヒープ構造

・「ヒープ条件」を満たすように数字を並べる

インデックスn	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
配列B(n)	2	5	10	6	9	14	11	20	15	18	13	22	16

ヒープ条件

$$B(n) \geq B(2n + 1), B(2n + 2)$$

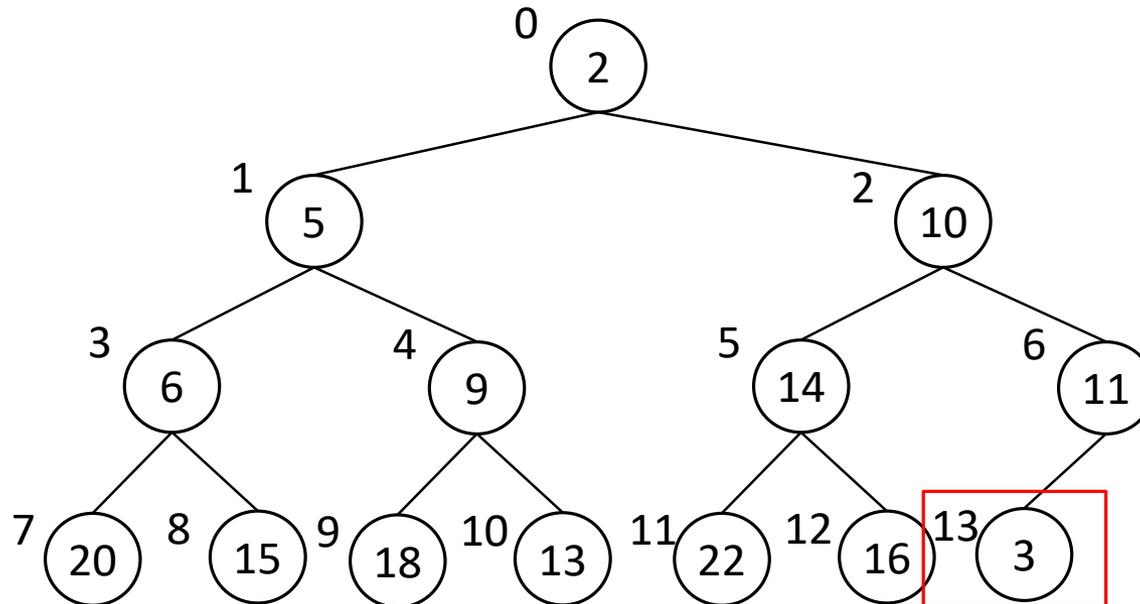


2.4 ヒープ構造

- ・数字の追加、削除が起きてもヒープ構造を維持

☆数字の追加

インデックスn	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
配列B(n)	2	5	10	6	9	14	11	20	15	18	13	22	16	3

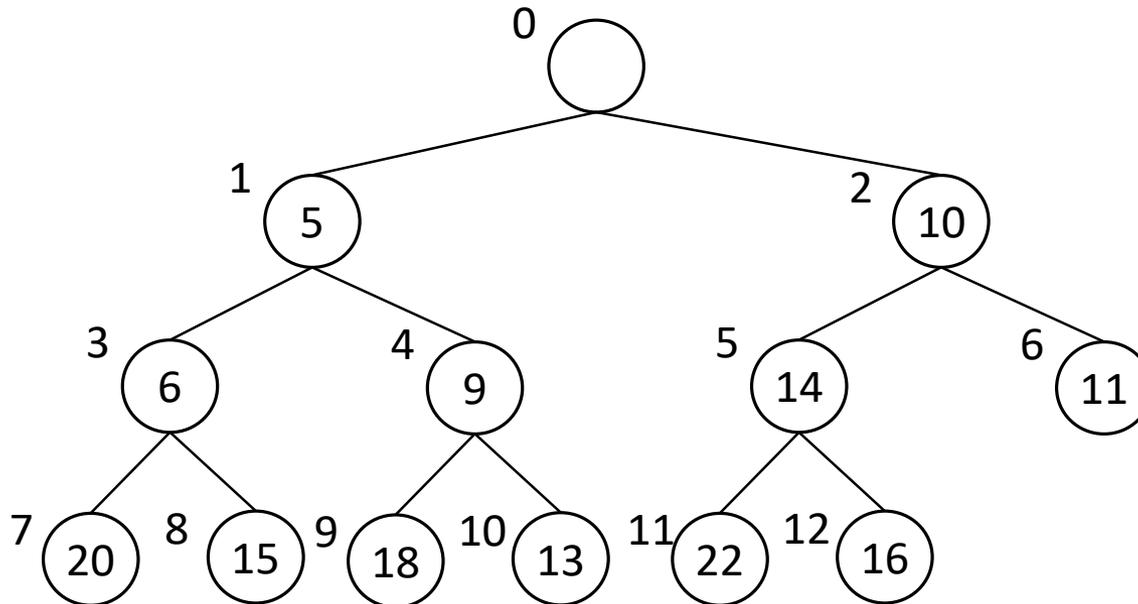


2.4 ヒープ構造

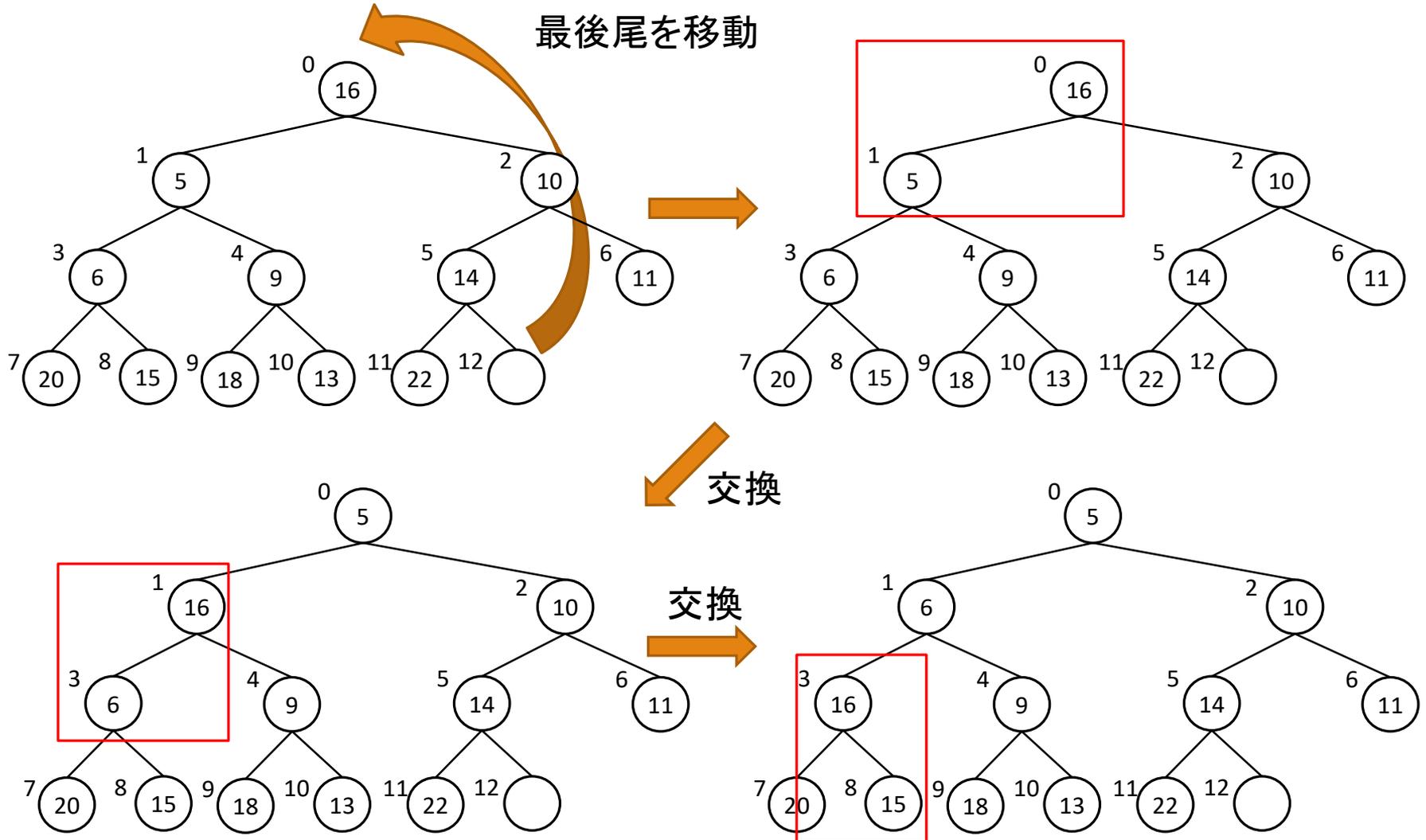
- ・数字の追加、削除が起きてもヒープ構造を維持

☆数字の削除(最小値データの取り出し)

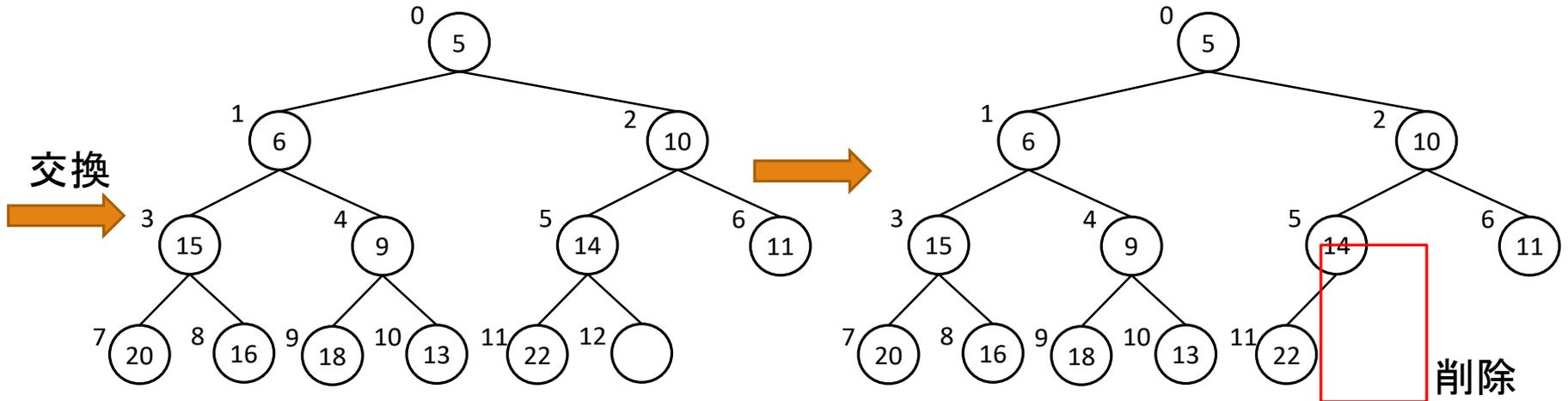
インデックスn	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
配列B(n)	2	5	10	6	9	14	11	20	15	18	13	22	16



2.4 ヒープ構造



2.4 ヒープ構造



ヒープ条件を満たしているので完了

今日の内容

1. 最適化問題(均衡配分モデルの導出における数学的手法)
2. 最短経路探索とダイクストラ法
3. 均衡配分法のアルゴリズム

3.1 非線形最適化問題の解法

- ・ n 回目の探索の結果、点 x_n が得られたとする

さらに降下した点 x_{n+1} を求めるにあたり必要なことは2つ

① どの方向に降下方向ベクトル d を設定するか

$$\text{降下方向ベクトル } d = y - x_n$$

(点 y : 点 x_n からさらに $Z(x)$ を小さくする方向に存在する点)

② 降下方向にどれくらい進むか

$$x_{n+1} = x_n + \alpha d = x_n + \alpha(y - x_n)$$

ステップサイズ

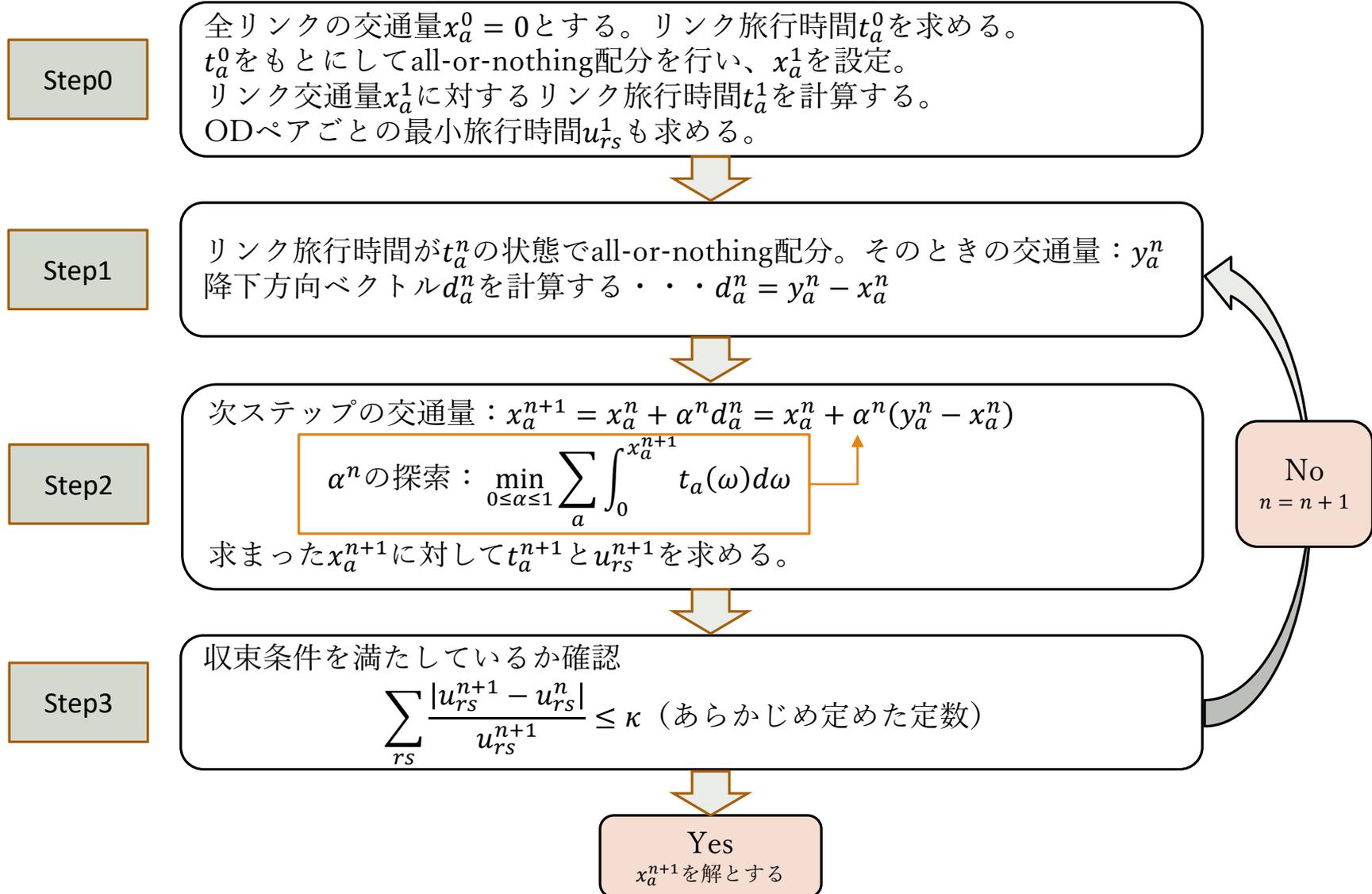
3.2 Frank-Wolfe法

- ・利用者均衡配分モデルの解法として広く用いられる

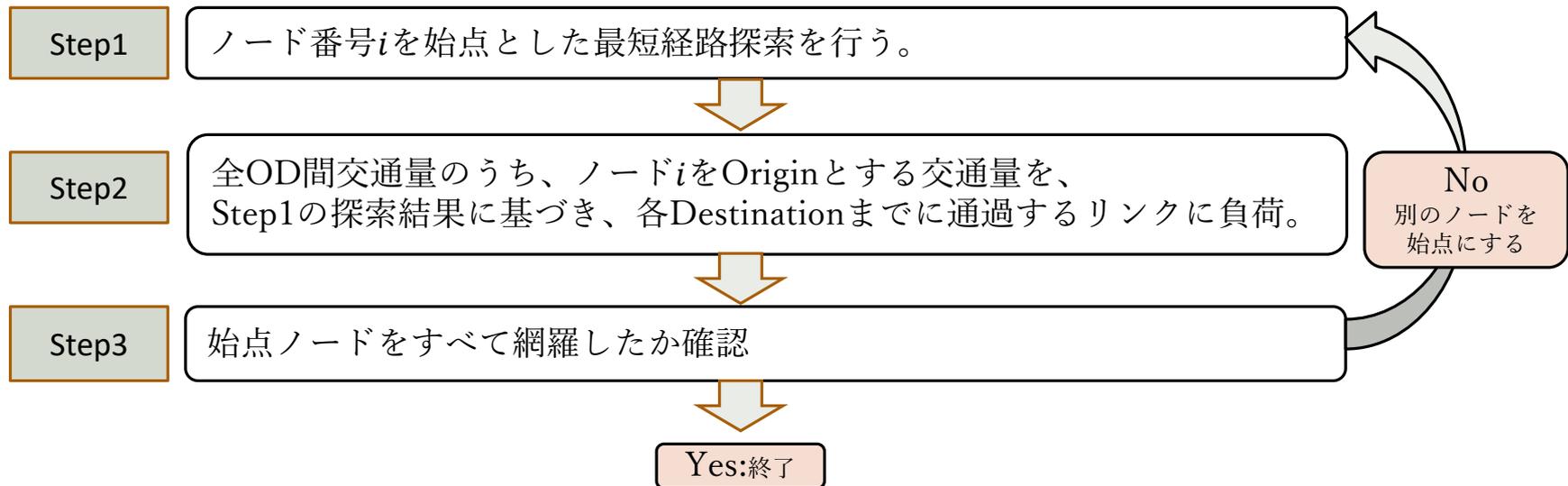
特徴

- ◎ 必要な記憶容量が少なくてすむ
- ◎ 手順が簡単のため、プログラムが作成しやすい
- × 収束が進むと収束スピードが緩慢になる

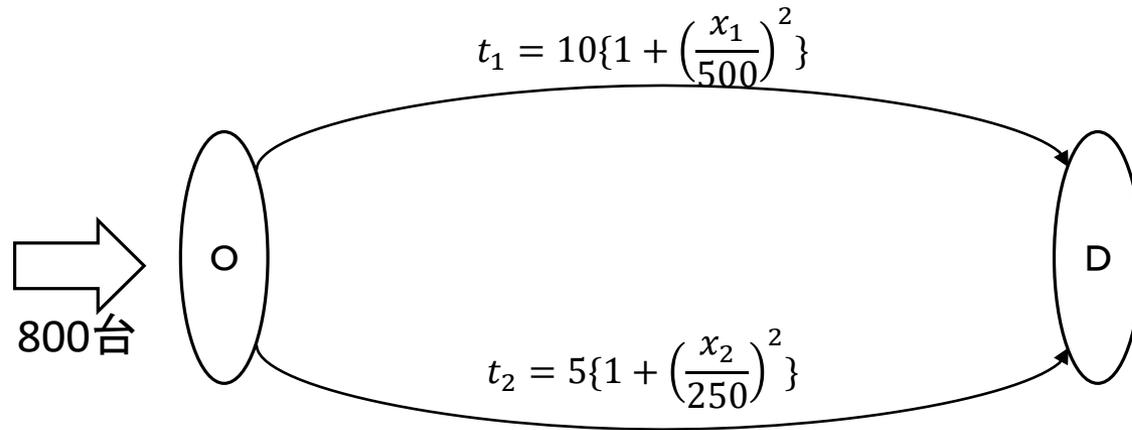
3.3 Frank-Wolfe法のアルゴリズム



3.3 参考: all-or-nothing配分のアルゴリズム

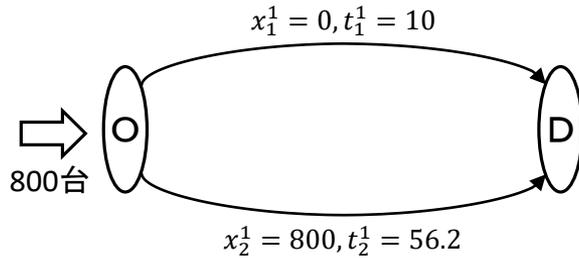


3.4 Frank-Wolfe法を用いた配分例

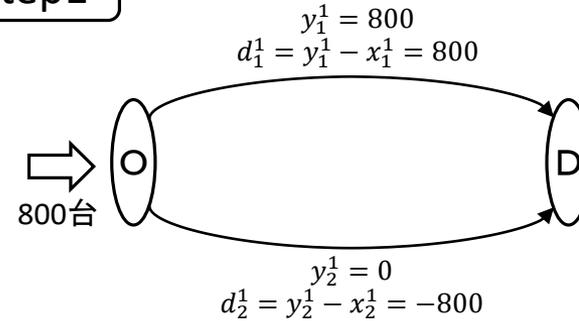


3.4 Frank-Wolfe法を用いた配分例 ($\kappa = 0.001$ とする)

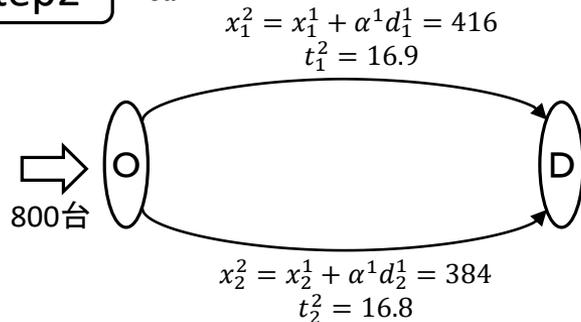
Step0 $u_{od}^1 = 10$



Step1



Step2 $u_{od}^2 = 16.8$



Step3

$$\frac{|u_{OD}^2 - u_{OD}^1|}{u_{OD}^1} = 0.68 > 0.001$$

⇒ Step1からもう1回

$$\min_{0 \leq \alpha \leq 1} \sum_a \int_0^{x_a^1 + \alpha^1 d_a^1} t_a(w) dw$$

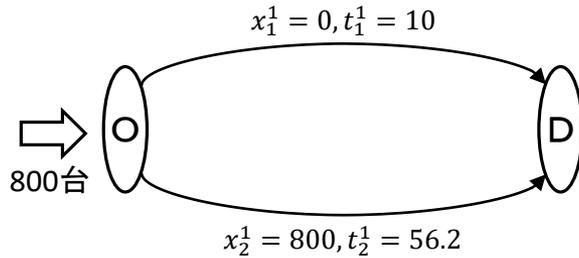
$$\Rightarrow \alpha^1 = 0.52$$

$$t_1 = 10 \left\{ 1 + \left(\frac{x_1}{500} \right)^2 \right\}$$

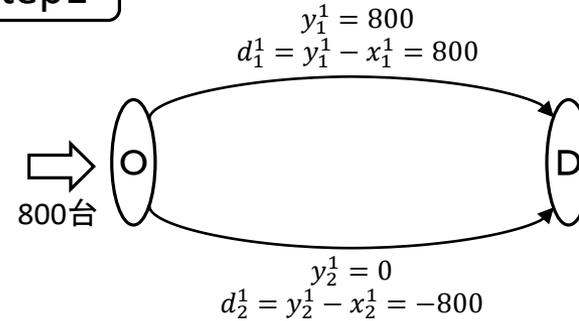
$$t_2 = 5 \left\{ 1 + \left(\frac{x_2}{250} \right)^2 \right\}$$

3.4 Frank-Wolfe法を用いた配分例 ($\kappa = 0.001$ とする)

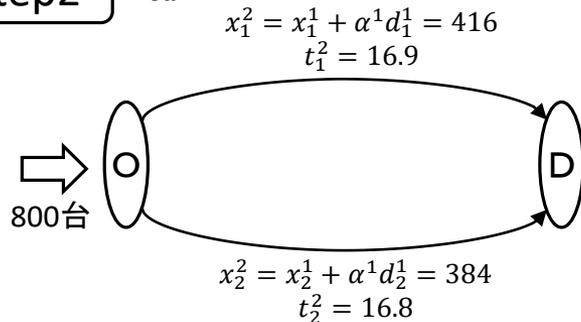
Step0 $u_{od}^1 = 10$



Step1



Step2 $u_{od}^2 = 16.8$



Step3

$$\frac{|u_{OD}^2 - u_{OD}^1|}{u_{OD}^1} = 0.68 > 0.001$$

⇒ Step1からもう1回

$$\min_{0 \leq \alpha \leq 1} \sum_a \int_0^{x_a^1 + \alpha^1 d_a^1} t_a(w) dw$$

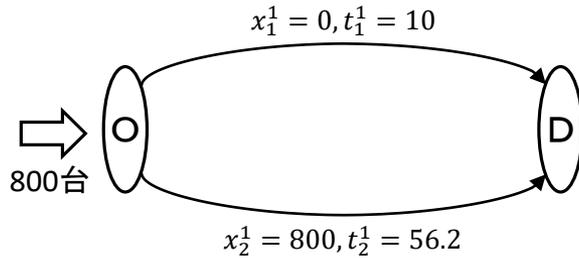
$$\alpha^1 = 0.52$$

$$t_1 = 10 \left\{ 1 + \left(\frac{x_1}{500} \right)^2 \right\}$$

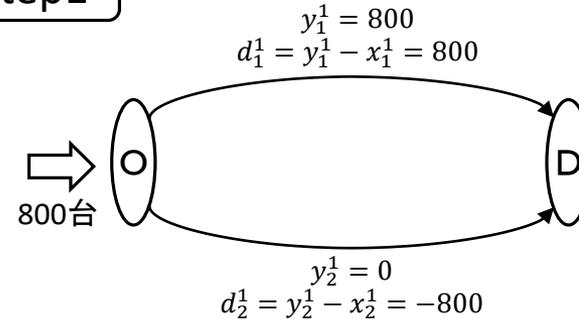
$$t_2 = 5 \left\{ 1 + \left(\frac{x_2}{250} \right)^2 \right\}$$

3.4 Frank-Wolfe法を用いた配分例 ($\kappa = 0.001$ とする)

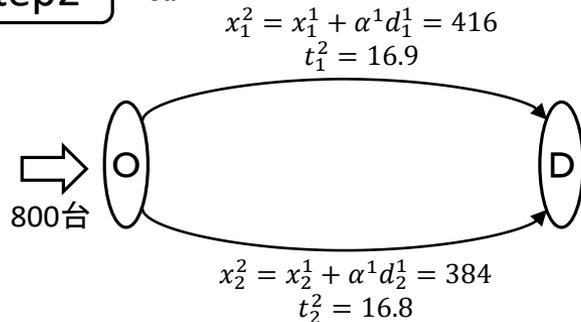
Step0 $u_{od}^1 = 10$



Step1



Step2 $u_{od}^2 = 16.8$



Step3

$$\frac{|u_{OD}^2 - u_{OD}^1|}{u_{OD}^1} = 0.68 > 0.001$$

⇒ Step1からもう1回

$$\min_{0 \leq \alpha \leq 1} \sum_a \int_0^{x_a^1 + \alpha^1 d_a^1} t_a(w) dw$$

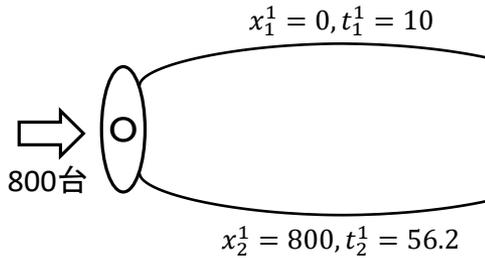
$$\Rightarrow \alpha^1 = 0.52$$

$$t_1 = 10 \left\{ 1 + \left(\frac{x_1}{500} \right)^2 \right\}$$

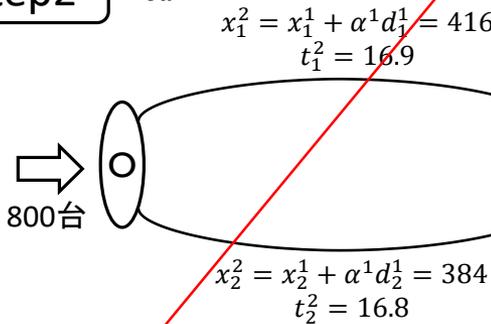
$$t_2 = 5 \left\{ 1 + \left(\frac{x_2}{250} \right)^2 \right\}$$

3.4 Frank-Wolfe法を用いた配分例 ($\kappa = 0.001$ とする)

Step0 $u_{od}^1 = 10$



Step2 $u_{od}^2 = 16.8$



```
> f<-function(s){
+   g1<-function(x){
+     10*(1+(x/500)^2)
+   }
+   g2<-function(x){
+     5*(1+(x/250)^2)
+   }
+   a<-integrate(g1,0,800*s)
+   names(a)<-c('value','abs.error','subdivisions','message','call')
+   a1<-a$value
+   b<-integrate(g2,0,800*(1-s))
+   names(b)<-c('value','abs.error','subdivisions','message','call')
+   b1<-b$value
+   a1+b1
+ }
> optim(0.5,f,NULL,method="L-BFGS-B",lower=0,upper=1)
$par
[1] 0.5183413

$value
[1] 8549.75

$counts
function gradient
      4          4

$convergence
[1] 0

$message
[1] "CONVERGENCE: REL_REDUCTION_OF_F <= FACTR*EPSMCH"
> |
```

0.001

$$\min_{0 \leq \alpha \leq 1} \sum_a \int_0^{x_a^1 + \alpha^1 d_a^1} t_a(w) dw \implies \alpha^1 = 0.52$$

$$t_1 = 10 \left\{ 1 + \left(\frac{x_1}{500} \right)^2 \right\}$$

$$t_2 = 5 \left\{ 1 + \left(\frac{x_2}{250} \right)^2 \right\}$$